

私が、統計課に移ってきたのは、去年の6月である。国勢調査を担当することとなった。それまでは、公害関係にたずさわってきたので、統計に関しては、まだ1年のキャリアである。従って、今はやっと仕事の大筋をおぼえたというところで、まだまだ統計を深く知るまでには至っていない。しかし、その間に素人なりに統計業務に関していくつか感ずるところもあった。それを雑談的に述べてみたい。

まず第一に、当然のことであるが、統計業務の相手となるのは「数字」であるということである。数字だけを相手にした仕事——これ程単調な仕事はない。役所の他の部課であれば、必ず、その相手として人間かあるいは生々しい現実問題かが何らかの形で関係する。私の前の仕事である公害に関しても、住民、企業及び市町村役所などの人たちが、公害事案という生の現実の中で複雑にからみ合っていた。従って問題の解決はきわめて困難であるが、そこには一種のおもしろ味というかやり甲斐があった。

これに対して、現実問題や人間とあまり関係することがなく、殆んど数字のみを相手にしている統計業務にたずさわっていて、仕事のおもしろ味というのはどこにあるのだろうか。単に集ってきた調査票の集計だけをしているのであったら、よっぽど気の長い人は別として、そこには何のおもしろ味もないのではなからうか。他の人はともかく、少なくとも私の場合は、そう感じる。

このような仕事であつたら、とても長くは続かないであろう。では、一体どこにおもしろ味を感じることができるのであろうか。私は、主に二つの点であると思う。

一つは、予算、市町村統計担当職員との連携及び調査環境等の諸問題のなかで、いかにより良い調査体制を整えていくかということで苦勞すること。

二つ目は、自分のやっている統計調査の結果が、どのように有効に種々の分野に利用されるかということ。

せっかく、努力して結果を出しても、それが何の役にも立たないというのでは、やり甲斐はない。多くのケースに、またより重要なものに利用されればされる程、自分のしている統計業務に張り合いを感じる。

しかし、さらにつきつめると、これではまだ受身的な張り合いであろう。

もし、自分で出した統計結果を、自分で何らかの行政のなかに積極的に生かしていったなら、よりおもしろ味を感じるにちがいない。しかし、残念ながら現在の組織では、これをそのまま行うことは不可能である。現在の組織では、県でも国でも——市町村においてはやや異つ

ているが——統計の結果を出すだけである。

しかも、他の部課においても、統計課で出した結果を十分に活用しそれぞれの行政に積極的に活用するまでには至っていない。相互の密接な関連をもたずにいる。

統計課と他の課との関係をもっと密にするか、あるいは双方の橋渡しとなるような課をつくるなどして、統計の結果をもっと有効に利用してもらわなくては、統計担当職員の努力も実らず、残念である。

自分で出した統計結果を自分で生かすことが不可能であるならば、せめて、他の部所ですべてを十分に生かしてもらいたい。そうすることによって、我々統計担当職員も、単調な仕事の中にも、張り合いを感じることができると思うのである。

以上の二点を考えながら、現在私が担当している国勢調査をふり返ってみると、多くの統計調査のなかでも、比較的有利である。本番である今年の10月1日までは、多くの人と接しながら又多くの問題をひかえて苦勞していかなければならない。苦勞が実れば、おもしろ味もある。又、国勢調査の結果は、いくつかの重要な行政上の政策立案に直接利用される。

しかし、国勢調査に要する莫大な経費と人間を考えてみるならば、もっともつとその結果をきめ細かに有効利用できないものかと思う。調査結果は、多くの項目にわたっている。せっかく、このように詳細に結果を出すのであるから、もっと種々の分野に有効に利用できるのではないか。

調査方法の研究ばかりではなく、調査結果の利用方法の研究も十分に行う必要があるのではないか。

そのためにも、統計を担当する部課と他の部課とのより密接な連携が必要となってくるであろう。

国勢調査の何冊もの立派な報告書を見ながら、このような考えにしばしばとられるのである。

われらトーマン

統計グラフの作図法

統計グラフの作り方(5)

<棒グラフ>…… (つづき)

数値の大小の差が非常に大きいか、逆に小さい場合には、次の様な方法がある。

○ 折り返し法(切り下げ法)……目盛りの最高値を均か、それ以下の切れ目のよい数値に切り下げて設計する。その結果、大きな数値の棒グラフは複数の折り返した棒グラフとなって表現される。また小さい数値は、2倍、またはそれ以上の長さで表現され、小数値間の比や差の観察が容易である。ただし棒グラフをたばねる場合、何本たばねても、棒の太さは一定にしなければならない。

○ 省略法……目盛りの途中を切断して、小さい数値を十分な長さで表現する方法。この場合、大きい数値の棒の大部分は省略されてしまうので、視覚的に判断する場合困難を伴う。したがってグラフの目的や性能の点で折り返し法より劣る。省略記号は必ず使用しなければならないが、2カ所以上の濫用はグラフとして価値を下落させるだけである。(図2)

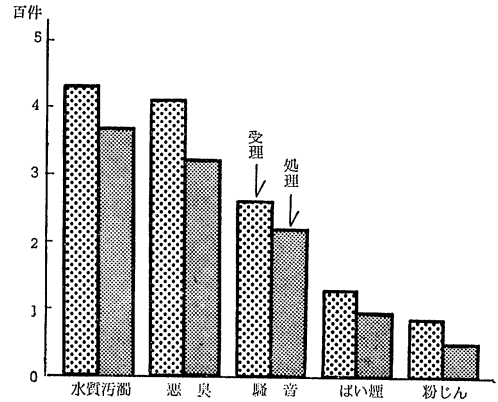
(2) 組み合わせと重ね合せ

棒グラフを2本以上(5本が限度)たばねて組み合わせることにより、相対的な数値の粗み合せの変化が表現できる。同じ内容の棒グラフ内に、同じ色彩か同じ模様をそえると効果的である。左右の配列順は不変であることが必要。

棒グラフを組み合わせる場合、棒の太さある程度以上に保つためには、棒グラフの半分ずつを前後重ね合わせる手法がとられる。重ね合わせる本数は3本が限度で、この場合も左右の配列順は不変である。数値の大きな棒は常に後ろ側にとること。……(図2)

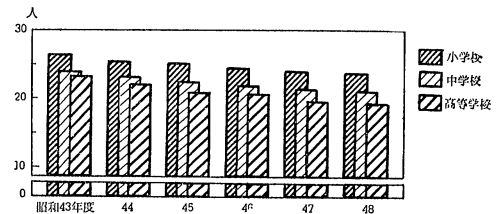
棒グラフ同士ばかりではなく、線グラフと組み合わせることも可能である。……(図3) その他、総数を示す棒グラフの種々な内容を、それぞれの数値に応じて内訳線で分ける「内訳棒グラフ」もある。……(図4)

図1 公害種類別受理処理件数 (昭和48年度)



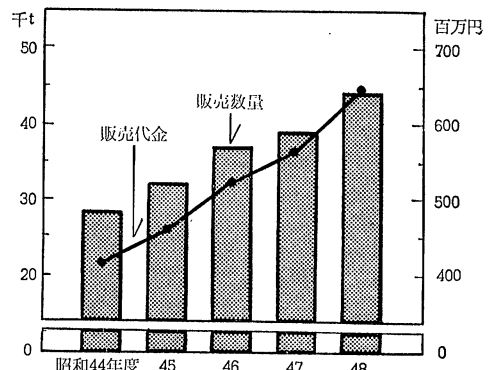
資料：県環境指導課

図2 教員1人当りの児童・生徒数の動き



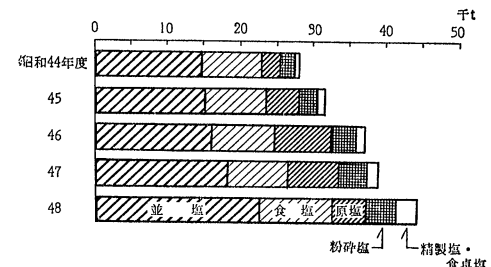
資料：県統計課

図3 塩販売実績の動き



資料：日本専売公社水戸地方局

図4 塩販売数量



資料：日本専売公社水戸地方局

新 着 資 料 案 内

下記の資料は、6月中に行政資料室に到着した主なものです。このほか、年鑑・年報・月報・各種計画書・報

告書・法令・教養・参考書・雑誌など数多くきておりますので御利用下さい。

行政資料名	内容年	規格		発行所(者)
		判	頁	
中央官公庁関係				
昭和49年 科学技術研究調査報告	49	B5	173	総理府 統計局
" 統計報告書名鑑	"	"	85	"
第5次漁業センサス 第1報	48	"	356	農林省 統計情報部
" 第1報分冊	"	"	559	"
" 第5報	"	"	375	"
" 第6報	"	"	221	"
昭和48年度 農林水産業に関する地域分析総覧	"	"	297	"
昭和48~49年 第50次農林省統計表	48~49	"	644	"
昭和48年 建築統計年報	48	"	229	建設省 計画局
昭和49年度 民間住宅建設資金実態調査結果	49	"	148	" 住宅局
湿性大気汚染(酸性降雨)について	"	B4	73	環境庁 大気保全局
昭和48年度 学校基本調査報告書	48	B5	630	文部省 調査統計課
" 学校保健統計調査報告書	"	"	107	"
昭和47年 文化庁年報	47	"	201	文化庁 庶務課
昭和49年 文化財愛護モデル地区活動概況	49	"	271	"
茨城県関係				
昭和49年 茨城県統計年鑑	48	B5	365	統計課
第7回 都道府県の展望	"	"	98	"
公害防止計画策定地域環境汚染等基本調査報告書	49	"	174	環境指導課
茨城の原子力	"	"	211	大気保全課
昭和49年 消防年報	"	"	193	消防防災課
" 茨城県の災害	"	"	72	"
茨城県土地利用基本計画	50	"	25	土地対策課
茨城県農林水産業の動き	43~49	"	84	農政企画課
茨城の水産	49	"	201	漁政課
県内市町村関係				
昭和49年 統計年報	49	B5	153	水戸市役所
昭和49年の統計	"	"	80	下館 "
昭和49年度~60年度 麻生町振興計画	49~60	"	31	麻生町役場

行政資料名	内容年	規格		発行所(者)
		判	頁	
東村農村総合整備計画書	50	B5	104	東村役場
1974統計八千代	49	〃	34	八千代町 〃
都道府県関係				
昭和49年 毎月勤労統計調査結果報告書	49	B5	89	神奈川県統計調査課
昭和48年度 県民所得推計報告書	48	〃	101	群馬県統計課
〃 静岡県 の 県民所得	〃	〃	69	静岡県 〃
昭和49年 統計からみた埼玉県 の 地位	49	〃	128	埼玉県 〃
愛知県 統計年鑑	48	〃	494	愛知県 〃
昭和48年度 石川県 民所得	〃	〃	98	石川県 統計調査課
〃 県民所得推計結果報告書	〃	〃	130	滋賀県 統計課
昭和49年 岐阜県 統計書	49	〃	481	岐阜県 〃
昭和48年度 三重県 民所得推計結果	48	〃	31	三重県 〃
昭和48年 奈良県 統計年鑑	〃	〃	223	奈良県 調査課
京都市 統計書 '74	〃	〃	368	京都市統計センター
大阪府 統計年鑑	〃	〃	488	大阪府 統計課
昭和49年度 大阪 の 学校 統計	49	〃	70	〃
和歌山県 統計年鑑	〃	〃	300	和歌山県 統計課
毎月勤労統計調査報告書	〃	〃	42	〃
昭和48年度 鳥取県 民所得推計報告書	48	〃	116	鳥取県 〃
愛媛 の 漁業	〃	〃	281	愛媛県 統計調査課
地域 と 住民	50	〃	85	香川県 〃
昭和48年度 福岡県 民所得報告書	48	〃	103	福岡県 〃
〃 長崎県 の 県民所得	〃	〃	104	長崎県 統計課
昭和49年 熊本県 の 商業	49	〃	277	熊本県 統計調査課
会社・団体等関係				
大八洲 開拓史	21~48	B5	344	大八洲開拓協同組合
昭和49年度 鉄鋼地域別受注統計表	49	〃	179	鉄鋼統計委員会
昭和48年度 農業総合研究所年報	48	A5	67	農業総合研究所

統計ニュース

— 8月の主な行事 —

- 7月21日~5日 国勢調査市町村事務打合せ会(第2次)
- 11日~12日 関東ブロック県民所得研究会(埼玉県)
- 4日~5日 果樹基本調査ブロック会議(栃木県)
- 19日~20日 労働力調査ブロック会議(埼玉県)
- 31日 消費者動向予測調査日